

実践事例

学校名	伊達市立桃陵中学校		校長名	佐藤 敏意		
住所	伊達市保原町字豊田1番地1		生徒数	464	学級数	15
TEL	024-576-6353	ホームページアドレス	http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=0720040			

わかる・できる課題設定の工夫

1 少人数指導の計画等

- (1) 生徒一人ひとりの個性を生かし、集団生活を円滑に営むため、学習習慣や生活習慣の定着を目指す。また、基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させ、それを活用する力を育てることにより、社会をたくましく生き抜くために必要な学力向上に努める。
- (2) 生徒の興味・関心や学ぶ意欲に基づき、主体的な学びを保証するために、学習課題の設定を工夫し、多様な学習活動が展開できるよう系統性を図って単元構想を工夫する。
- (3) 校内体制を確立し、教科を横断した教師間の連携を図ることで、学習指導および生徒指導の充実を目指すとともに、教師と生徒間および生徒どうしのコミュニケーションを図りながら学級・学習集団づくりに努める。

2 実践の概要

【理科】わかる・できる課題設定の工夫

〔考える必然性があり意欲が高まる学習課題の設定の工夫〕

- * 興味をもって考えたり、話し合ったりする課題を設定するには、柔軟な発想で様々な視点からせまることが大切である。単元のねらいを明確にし、担当教師間で互いに意見を交流する中で、生徒にとって考える必然性が感じられる課題を設定するとともに、事象提示を行い、学習課題の把握に生かせるように努めた。



〔課題解決への見通しをもたせる工夫〕

- * 予想や実験計画の立案、考察の段階で、自分の考えをもたせ、それを伝え合う場を設定するようにした。班での話し合いを行った後、学級全体で共有し、再び自分の考えを振り返るようにした。
- * 一人一枚簡易ホワイトボードとペンを持たせ、自分の考えを書かせ、提示する方法をとり入れた。この方法は、机間指導により個に応じた指導も可能であり、仲間との交流により、他の人の意見も自分の考えにとり入れやすくなる。また、一斉にホワイトボードを教師側に提示することで、「どの生徒がどのような考えをもっているのか」を把握することが可能である。発表が苦手な生徒の考えも授業構成に生かすことができ、多くの生徒の考えをとり入れることができた。



3 実践の成果と課題

- 教師相互による指導方法等の伝達や教え合いを行うことで、生徒の実態を踏まえつつ、多くの生徒の問いや考えを引き出し、授業に生かすように努めることができた。
- 少人数指導について担当教師が連携を図り、共通実践することで、個に応じたきめ細かな指導を行うことができた。また、学習課題の提示のしかたや解決への見通しをもたせる工夫など指導の改善に生かすことができた。
- 「個人の考え→班での話し合い→学級全体で共有」の学習過程を成立させるためには、さらに学級の良質な人間関係をはぐくむとともに、教師の思考の共有と吟味を促す場をコーディネートする力を向上させる必要がある。
- ホワイトボードに考えを書かせることが目的にならないように、その活用のしかたを十分に検討していくことも大切である。